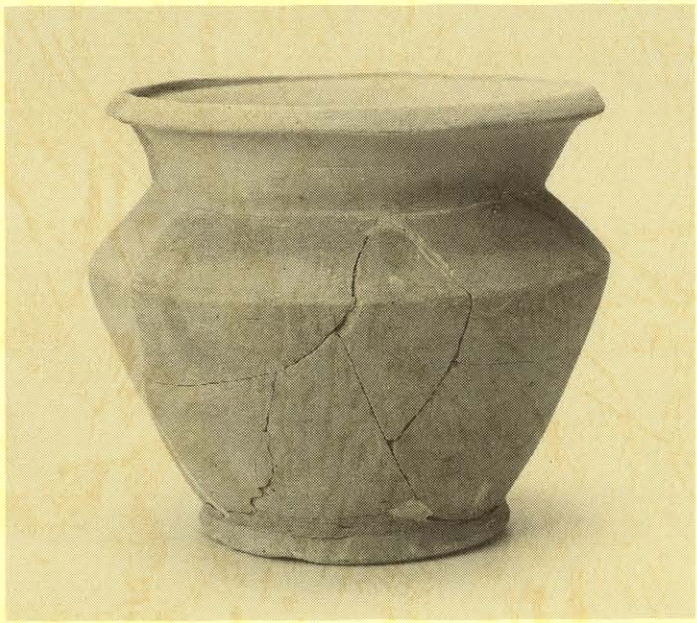
大阪府埋蔵文化財調査報告1999－7

岡　遺　跡



2000. 3

大阪府教育委員会

はしがき

岡遺跡は松原市の東南に位置し、府営岡住宅建設に伴う平成３年度の発掘調査で遺跡の実態をはじめて知ることができました。その結果、旧石器時代から中・近世に至るひとびとのくらしの跡が遺構・遺物になって残されていました。

特に、古代から中世にかけて南河内一帯では河内鋳物師と呼ばれる工人集団が活躍していたことが知られ、本遺跡からも鋳造活動を行っていた痕跡が数々発見されています。

今回調査地は、鋳造活動の痕跡がみつかっていた地点の東側にあたり、その広がりを確かめる成果が期待されました。予想に反して、調査地点では鋳造活動が行われた顕著な遺構は発見されませんでしたが、中世集落の一角について明らかにされました。また、奈良時代後期にもこの地で生活をいとなんだひとびとの痕跡が確認され、土地利用の一端を窺うことができました。

これらの成果も、地元自治会はじめ、関係各位のご協力の賜物と感謝する次第です。厚くお礼申し上げますと共に、今後とも本府文化財保護行政にご理解とご協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成12年３月

大阪府教育委員会
文化財保護課長　小林　栄

例　　言

1．本書は大阪府教育委員会が実施した府警松原岡交番建設に伴う、松原市岡２丁目所在、岡遺跡の発掘調査報告書である。

2．現地調査は大阪府警察本部から依頼を受け、平成11年８月に着手、平成12年３月末にすべての事業を終了した。

3．現地調査・本書の執筆は文化財保護課調査第１係技師、西川寿勝が担当した。

4．本書に掲載された出土遺物の挿図・図版番号は巻末の対照表に示した実測番号に対応する。掲載された遺物には実測番号を注記し、保管・活用のために配慮した。

5．遺構図の基準高は東京湾平均海水位（T.P.）数値を、方位は磁北を示す。

目　　次

第１章　位置と環境…… 1
１．歴史的環境
２．これまでの調査
第２章　発掘調査…… 4
１．調査方法
２．層序
３．発見された遺構
４．出土遺物
第３章　まとめ…… 9
付載１　下水道付設事業に伴う立会調査…… 9
付載２　鉱滓のひろがりと河内鋳物師の活動…… 10

挿　図　目　次

図１　鋳造遺構検出状況…… 2
図２　周辺遺跡分布図…… 3
図３　岡遺跡地区割表示図…… 4
図４　周辺調査区位置図…… 5
図５　調査区平面図及び遺構断面図…… 7
図６　出土遺物実測図…… 8
図７　銅滓選別・選鉱の様子…… 11
実測遺物登録対照表…… 12
報告書抄録…… 12

図　版　目　次

表紙カット　須恵器短頸壺（奈良時代後期）
図版　河内大塚山古墳から調査区をみる
図版１　調査風景
図版２　調査区全景
図版３　遺構堆積状況
図版４　下水道付設事業の立会調査・出土遺物

第１章　位置と環境

１．歴史的環境

岡遺跡は東西に長尾街道が南北に中高野街道が交差する地理的に高まった丘状の段丘に位置する。これまでの調査でナイフ形石器・打製石鏃と剝片などの発見があり、後期旧石器時代から縄紋時代にかけては狩猟の場にされたようだ。ただし、段丘地形を形成する基盤は柔らかい粘土層であり、該当期の地表面ははやい段階で流出、あるいは開墾などによる撹乱で削られたらしい。よって、集落が営まれていたとしても、その痕跡が残されている可能性は少ない。本調査区の北約500mで行われた昭和55年の発掘調査では縄紋時代晩期の土器と共に石棒が発見されており、付近に縄紋時代集落の存在したことを示唆する（図２）。

この状況は弥生時代・古墳時代に至っても同様である。しかし、遺跡の北東には全国屈指の規模を誇る河内大塚山古墳（全長335m、図版１－１）が築かれるなど、古くから開かれた位置だったことが伺える。近年、新堂古墳群・一津屋古墳・立部古墳群・権現山古墳・狐塚古墳など、削平されて埋没した小規模古墳が調査によって偶然発見されるにいたり、古墳時代の土地利用も解明されはじめた。岡遺跡でも確実に古墳を示す遺構の発見はないが、周溝状の溝に伴って古墳時代後期の須恵器がまとまって見つかったり、埴輪の細片が付近に散乱することから削平された埋没古墳群の発見が期待できる。

奈良時代、同地を拠点にしたと思われる丹比氏の台頭が『続日本記』・『万葉集』などの記述から伺える。なかでも、丹比真人は現在では大蔵大臣にあたる官職までのぼりつめた人物として知られ、万葉集に数首の詩を残している。本遺跡の南に位置する太井遺跡では奈良時代の鋳造痕跡が確認され、岡遺跡からも和同銭が出土していることを評価すれば、丹比氏が鋳銭司にかかわる鋳造活動を展開していたことが想定できる。今回の調査でも奈良時代後期の遺構・遺物が見つかった。立部遺跡では飛鳥時代から奈良時代にかけての土壙墓・火葬墓群も発見された。今後、奈良時代の遺構と丹比氏とのかかわりが考古学的に実証されることを期待したい。

平安時代末から鎌倉・室町時代には本遺跡でも鋳造活動が展開されていたことが考古学的に解明された。河内鋳物師の活動拠点だったと考えられている。ただし、中世の鋳造遺構は堺市日置荘遺跡・美原町余部遺跡、真福寺遺跡・松原市立部遺跡、岡遺跡など、広域に点在する。文献に示されるように鋳造工人集団は多系統に及んだのだろう。また、それぞれの遺跡では工人の住居とは別に瓦葺きの大型建物が隣接して建設されており、工人を庇護した荘園領主や寺院勢力などとの関わりが注目できる。

河内鋳物師の活動も中世後半には衰退、あるいは拠点を堺環濠都市や阿倍野に移し、鉄砲や刃物などの生産に転換してゆく。南北朝期の動乱や戦国時代の都の衰微がこの地にも影響したのだろう。この後、河内鋳物師は再編されなかったが、現代にいたっても、この地で活躍した鋳物師を顕彰する活動が地元の方々を中心に続けられている。特筆すべきことである。

2．これまでの調査

今回調査区に近接する場所での発掘調査は平成４年から行われており、調査成果も既存の成果で幾分は予想することができていた。まず、府営住宅建て替えに伴う住棟の調査では今回調査区南側で中世建物群と井戸などが、南東で、中世の鋳造関連遺構と奈良時代の掘立柱建物群が発見されている。今回調査区南東で行われた府営住宅浄化槽、及び下水管敷設に伴う発掘調査でも、小規模な中世土坑群が見つかっている。この付近は中位段丘中、高所に位置し削平が激しい。

南の住棟部分をはさんで、さらに南側を松原市教育委員会が小規模な発掘調査をしている。この調査では鎌倉時代の軒瓦など、中世の遺物が多量に見つかっており、小字名にある「薬仙寺」を評価して寺院の存在が考えられる。

今回調査区の西に隣接して集会所建設に先立つ発掘調査を行った（図４）。遺構面の大半は削平や撹乱によって破壊されていたが、小規模な土坑が見つかっている。また、北隅で井戸とそれに伴う東西溝を検出した。しかし、大半が調査区外だったため、詳しい状況は不明だった。東西溝は本調査区に向って続いており、実態の解明が期待された。今回の調査によって溝の続きとそれに取りくつ井戸が検出され、近世の遺構であることも確認できた。詳細は次章に記す。

その他、岡遺跡の北端・東端でも個人住宅建設や埋管敷設工事に伴って、松原市教育委員会が数か所の調査をしている。その成果については本報告を待ちたい。

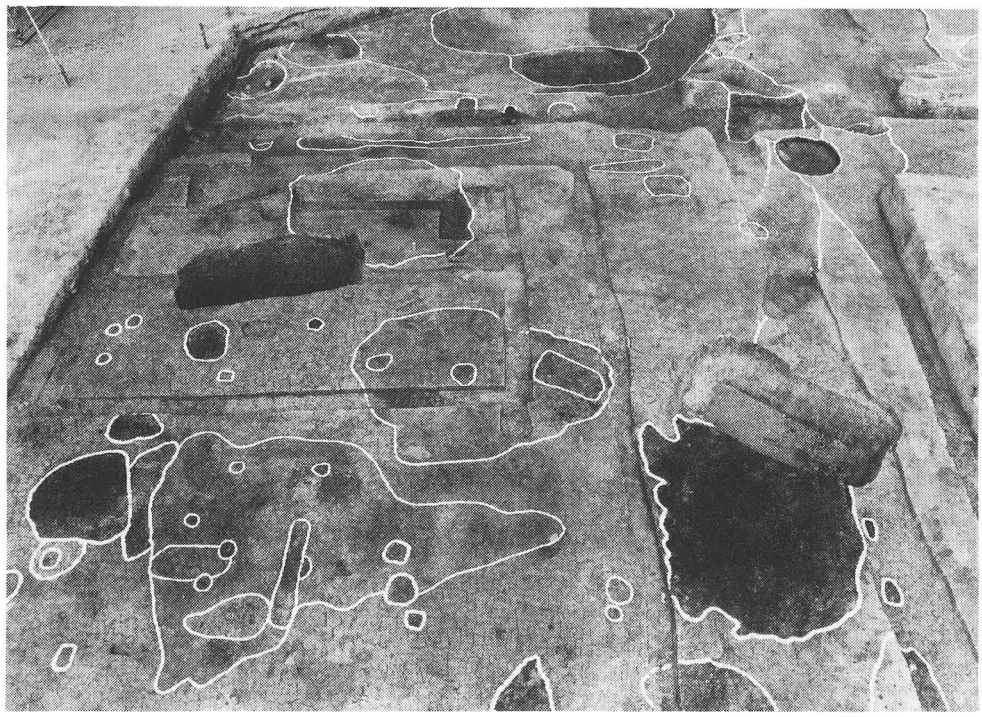


図１　鋳造遺構検出状況（平成４年度調査区）

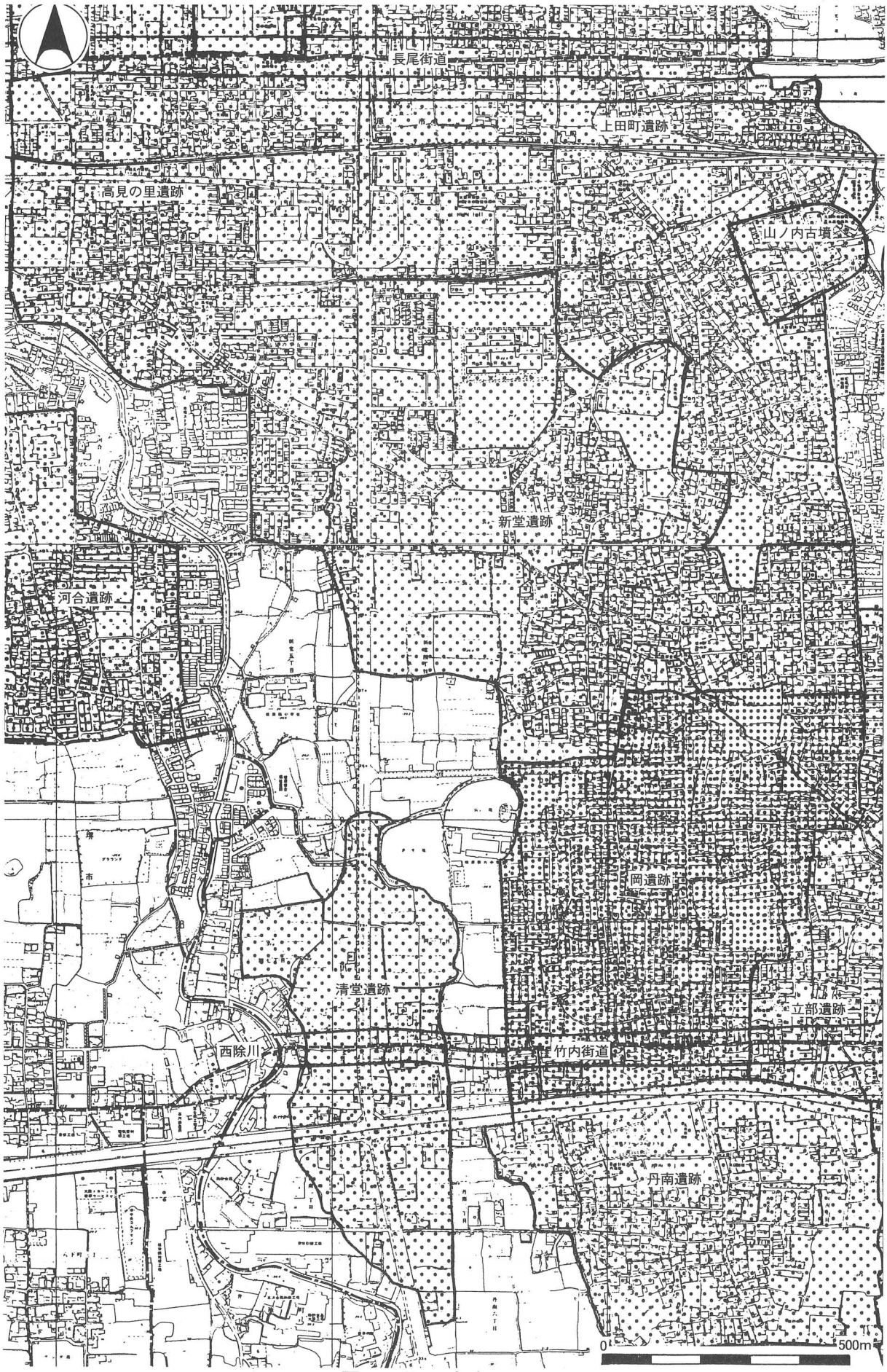

長尾街道
上田町遺跡
高見の里遺跡
山ノ内古墳
新堂遺跡
河合遺跡
岡遺跡
清堂遺跡
立部遺跡
西除川
竹内街道
丹南遺跡
0
500m

図２　周辺遺跡分布図

第２章　発掘調査

１．調査方法

調査区は東西10m、南北約13mの方形である。その位置表示は国土座標を使用、Ｘ・Ｙの座標値で示し、平成４年度に行われた調査と整合できるようにした。ただし、平成４年度の調査は測量委託して航空写真測量を行ったのに対し、今回調査では工事用の基準点から手測量した方眼を平板測量の図面に重ねたので精度は一致しない。

さて、今回調査区のある松原市岡２丁目は大阪府発行1/2500地形図（都市計画図）のＦ５にあたる。これを基準として、12等分した500m四方の方形区画をさらに25等分する。調査区が位置する100四方の方眼は大阪Ｆ５－８－Ｅ５と示すことができる（図３）。なお、今回調査区はいたるところに撹乱があり、良好な遺物包含層と複雑に切り合う遺構が検出されなかったため、遺物は地区割をせずに層ごと、遺構ごとに取りあげた。

２．層序

調査区周辺は現在宅地化が進んでいるが近年まで水田が広がる光景がみられた。本調査地も旧府営住宅が建設される以前に水田だったことが、戦前の航空写真や古地図などで確認できる。

調査直前、該当地は緑地帯に整備されていた。その盛り土を重機で除去すると旧府営住宅の基礎、路面、道路側溝などがあり、その下に部分的な水田耕土がみられた。水田耕土を除去すると層厚約10㎝前後の茶褐土層が部分的に残されていた。この層が水田床土にあたり、古墳時代から中世までの遺物をふくむ包含層である。包含層を除去すると黄褐粘土の地山となる。地山直上は部分的に茶褐色に変色していた。遺構はすべて地山を切り込む形で検出された（図５・図版２・３）。地山の黄褐粘土は付近の調査でも広範に確認されている。鋳造関連遺構が発見された段丘西端の地山は今回調査区より少々粘質感を感じる。

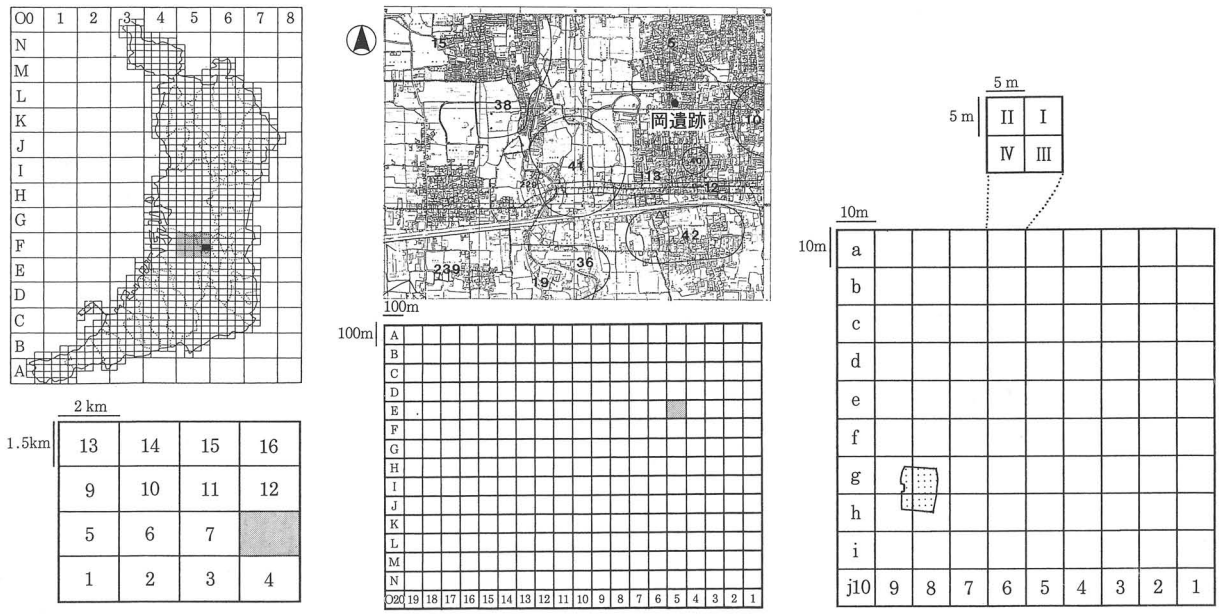


図３　岡遺跡地区割表示図

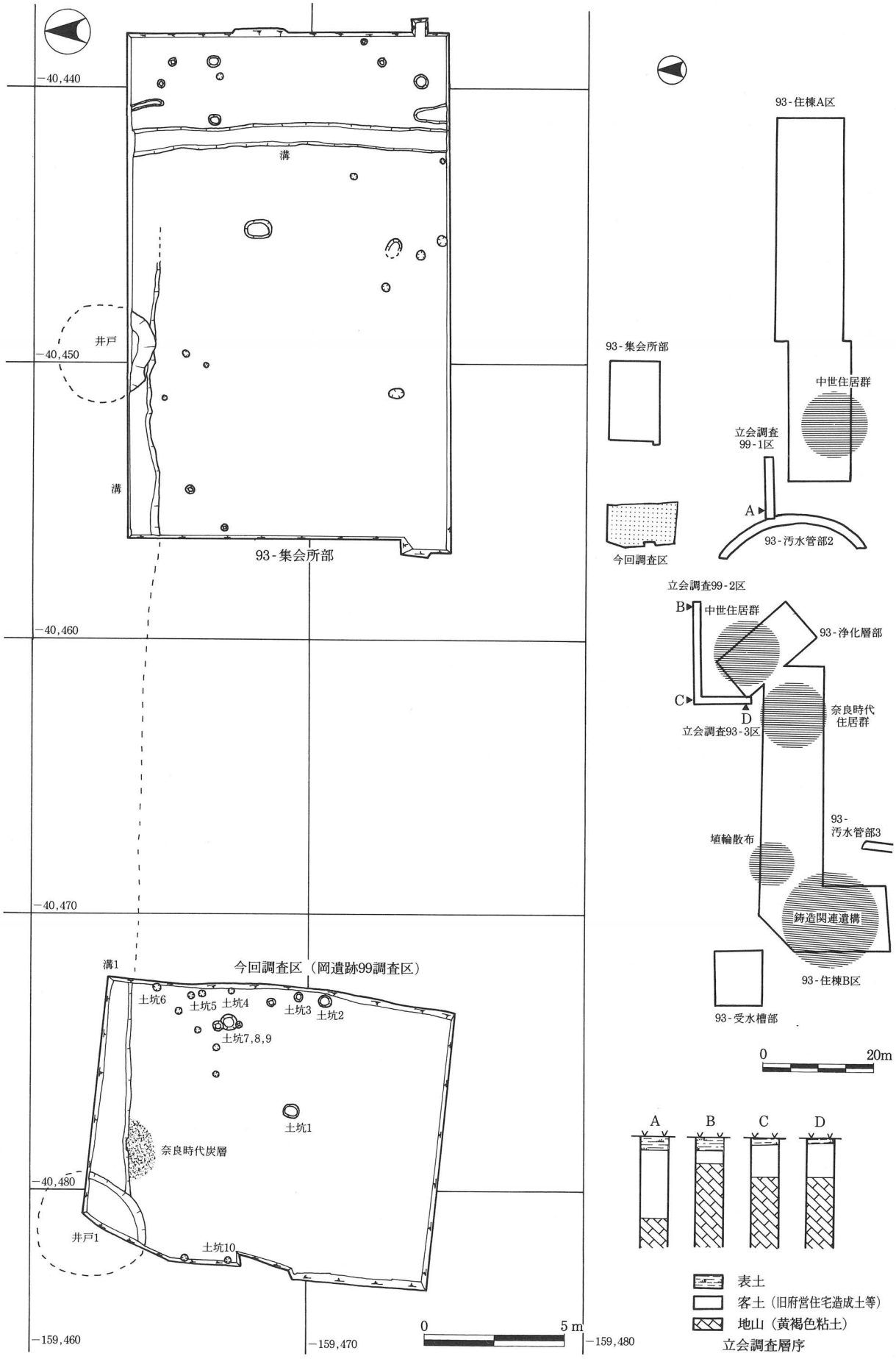

−40,440
−40,450
−40,460
−40,470
−40,480
−159,460
−159,470
−159,480
溝
井戸
溝
93-集会所部
今回調査区（岡遺跡99調査区）
溝1
土坑6
土坑5
土坑4
土坑3
土坑2
土坑7,8,9
土坑1
奈良時代炭層
井戸1
土坑10
0
5 m
93-住棟A区
93-集会所部
中世住居群
立会調査
99-1区
A
93-汚水管部2
今回調査区
立会調査99-2区
B
中世住居群
93-浄化層部
C
D
奈良時代
住居群
立会調査93-3区
93-
汚水管部3
埴輪散布
鋳造関連遺構
93-住棟B区
93-受水槽部
0
20m
A
B
C
D
表土
客土（旧府営住宅造成土等）
地山（黄褐色粘土）
立会調査層序

図 4　周辺調査区位置図

3．発見された遺構

今回の調査区では土坑、溝、井戸を確認した。しかし、撹乱、削平の及ぶ範囲が広く、破壊された柱穴と組み合う穴などが含まれる可能性もある。本節では主要遺構について記す（図５）。

土坑１は調査区の中央に位置する南北0.8m、東西0.6m、深さ0.15mを測る楕円形の土坑である。土坑底部が残存したものだろう。埋め土は暗褐土で奈良時代の須恵器片が含まれていた。

土坑２・土坑３は調査区の東端に南北に並ぶ楕円形の土坑である。いずれも、深さ0.1m程度で、土坑底部が残存したものだろう。埋め土は暗褐土である。土坑２からは平安時代末頃の瓦器碗が見つかっている（図６－13　図版３－４）。

土坑４～７・土坑10～12は調査区の西端・東端に位置する円形の土坑である。これらは組み合って掘立柱建物の柱穴になる可能性もあるが、いずれも調査区外に及ぶため、確実視できない。埋め土はいずれも暗褐土で土坑７には中世土器小片が含まれていた。時期は中世以降だが明確にできない（図版３－３）。

井戸１は調査区の北西隅で検出された深さ3.5m以上を測る円形の素掘り井戸である。全形はわからないが上端の直径約３m、底部の直径約0.6m程度に及ぶと考える。東には溝１が取りつく。埋め土は下半部がよく締まった黒褐強粘土で自然堆積の様相を示す。上半は暗灰粘土・淡灰強粘土（地山ブロック混）など、埋め戻しの土がみられる（図版３－２）。最上部は溝１の暗褐灰粘土ブロックを含む。埋め土の上半から、近世の陶磁器・瓦・シャクなどが見つかった（図６－17・18 図版４－５）。この井戸は生活用水の確保というよりも、農業用に活用された感がある。

溝１は調査区の北隅を南北にはしる幅１m以上の溝である。溝の上半は削平され、底部は船底形を示す。埋め土は暗褐灰粘土で、少量の瓦器・土師器とともに近世の陶磁器が含まれていた。平成４年度に調査された集会所部検出の溝につながると考える。この溝の東端には素掘り井戸があり、溝は二つの井戸を連結する形になっている（図４・６－15～17・図版３－１）。

4．出土遺物（図版４－３～５）

発見された遺物はコンテナ３箱に及ぶ。古墳時代後期の須恵器・奈良時代の土師器、須恵器・中世の瓦器・土師器、近世の瓦・陶磁器・木器がある（図６）。このうち、奈良時代後期の土師器甕・須恵器壺・蓋坏などが調査区北西からまとまって発見されている（６・12・13)。遺構に伴うものではないが薄く炭層も確認されたので、住居に伴うものか、浅い廃棄土坑だったのかと予想する。

奈良時代の土器は土師器皿・壺・甕、須恵器蓋坏・壺・鉢がある。土師器は表面が摩滅して細かい調整が判然としない（１～４）。須恵器蓋坏はいずれも小型で小片、坏身は高台をもたず、口縁端部が平らに仕上げる（５～９）。鉢は小型で内外面とも丁寧にナデ仕上げされている（11)。壺は小壺（10）と短頚壺（12）がある。短頚壺は口径16.6㎝、底径9.2㎝、器高15.0㎝を測る。内面はナデ仕上げするが外面のナデ仕上げは粗い（表紙カット)。

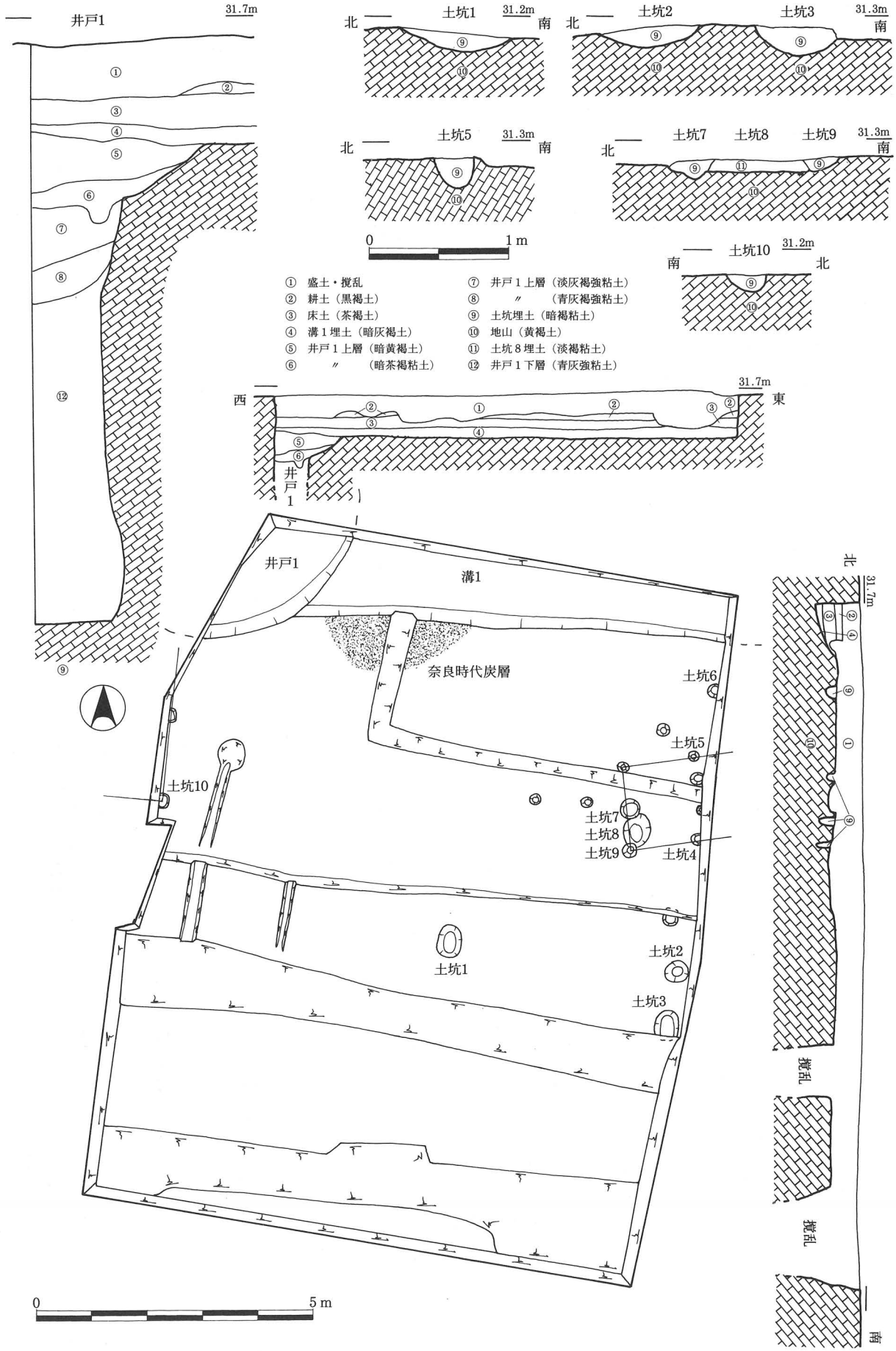


図５　調査区平面図及び遺構断面図

中世の土器には土師器・瓦器がある。いずれも小片である。土坑２から発見された瓦器碗は器高６㎝を測る（12）。表面が摩滅しており調整はよくわからない。平安末のものだろう。遺跡西側で発見された鋳造関連遺構と大型建物はこの時期のものである。

今回調査区でもいくつかの鉱滓が確認できている。鉱滓については付載２（P10）でその性格を分析する。

近世の遺物には瓦・陶磁器・木器がある。陶磁器は溝１に伴ない（18）、その他は井戸１上層の埋め土から発見された（14～17）。陶磁器には湯飲み茶碗、すり鉢などがある。瓦は簡便化された唐草紋を刻む軒平瓦が含まれていた（14・15）。この時期の軒瓦は付近の調査で確認されておらず、調査区北側に建物があったと予想する。井戸から見つかったシャクは杉板を樹皮ひもで固定し、柄をつけたもので、破損して発見された。シャク柄は長さ11.2㎝を測る。

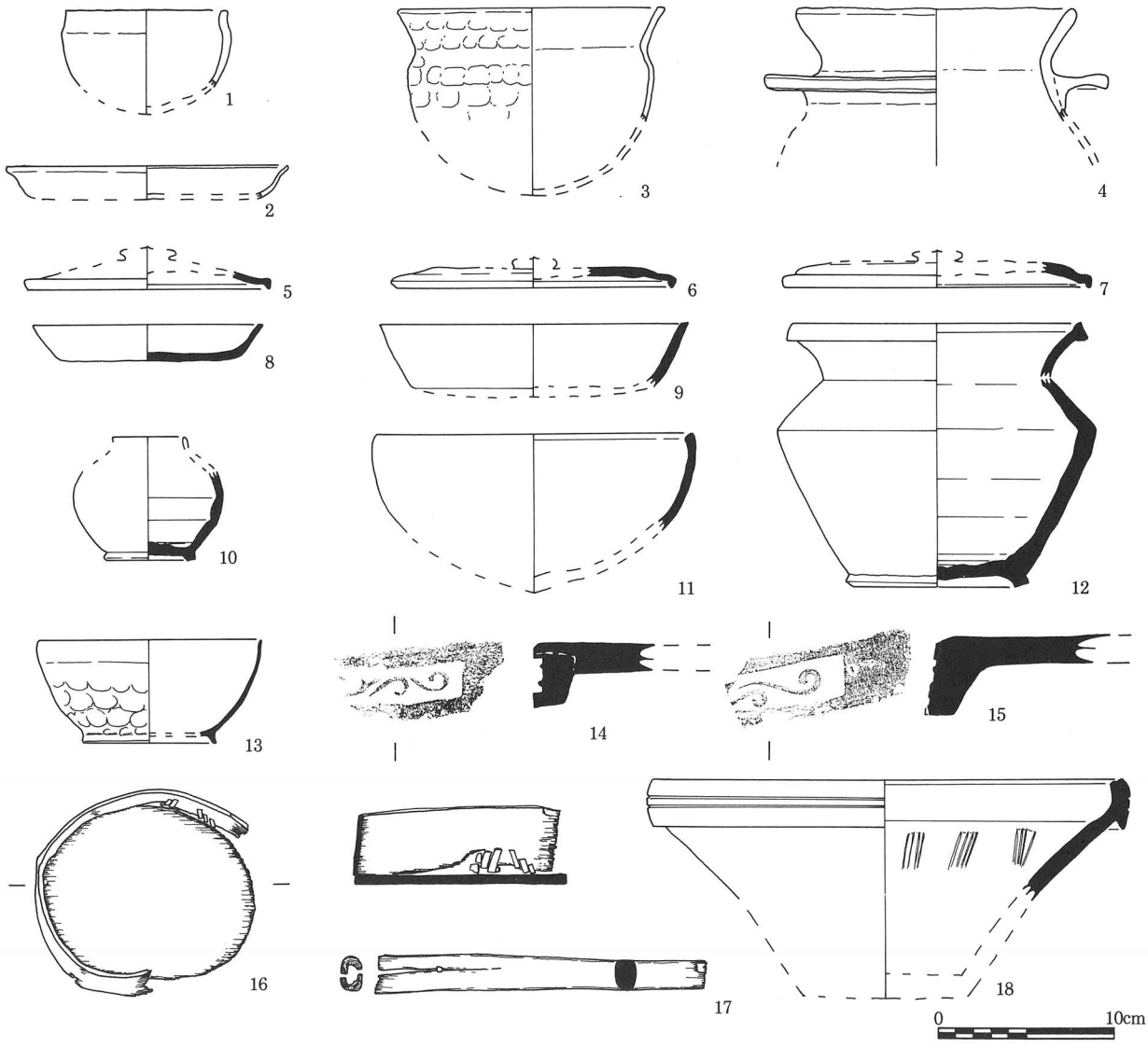


図６　出土遺物実測図（1/4）

第3章　まとめ

今回の調査では奈良時代後期・中世・近世にわたって生活の一端があったことを知ることができた。ただし、遺構・遺物は削平や撹乱などで破壊された部分が多く、良好に痕跡が残されていなかった。よって、本来の姿は十分にうかがい知れない。

平成4年度の調査では奈良時代後期の建物群が調査区南西から発見されており、今回は良好な遺構は検出できなかったものの、壺・甕などの出土から集落の広がりがこの地域まで及ぶと予想できた。逆に中世の遺構・遺物は他地区より閑散としており、今回調査区が中世集落の北限を示すかもしれない。

調査区北側から発見された井戸に取りつく溝は近世の開削である。前回の調査で発見された溝につながるもので、東西に直線的なことから耕地境界を兼ねていたのだろう。近世以降の条里制水田の区画に対応する可能性もある。ただし、この地域の条里制区画は古代から中世までさかのぼると予想されている。今回発見された東西溝は中世までは及ばないことから坪境に関わるものではない。

付載1　下水道付設事業に伴う立会調査

本調査区の南20mの地点において、府営岡住宅に伴う下水道管埋設事業が計画された。計画地のうち浄化槽の建て替えについては以前の調査地内に収まるため問題は生じなかった。しかし、浄化槽に取りつく埋管の付設については未調査地を深く掘削するため、立合調査を実施し、遺構・遺物の有無を確認することとなった。現地調査は平成11年12月13日・14日におこなった。

調査地点は三か所にわかれる（図4）。99－1区は以前に調査された93－住棟A区の北西に取りつく東西約10m、幅約1mの設定である。99－2区はおなじく調査された93－浄化槽部調査区から北に取りつく位置に南北約10m、幅約1mである。99－3区は99－2区の北から東に向って東西約20m、幅約1mに位置する（図版4－1．2）。

いずれの調査区も上層に厚い盛り土をともない、これを除去して遺物包含層を確認した。しかし、三つの調査区はすでに遺物包含層である茶褐土層が残されておらず、地山に切り込まれた遺構も発見できなかった。したがって、遺物も発見されていない。

該当地は岡遺跡内でもっとも高い段丘上に位置することから、旧府営住宅建設に伴い、すでに削平・整地されていたようである。

付載2　鉱滓のひろがりと河内鋳物師の活動

遺跡に残された鋳造活動の実態を示す遺物には鋳型・フイゴ、ルツボ・炉壁など、鋳込みに使われた道具の残片、まれにノミやハサミ、砥石などの工具などがある。これらは活動の細部を具体化することができる。他に、鋳造の過程でこぼれたり廃棄された鉄・銅滴などの残存原料や欠陥品、スクラップ片もある。また、製品を仕上げる際に切除されるバリや注湯の方法をしめす鋳竿などもある。これらは原料の実態を分析・解明する上で重要視できる。

しかし、上記以外の大多数を占める遺物として、鉱滓と呼ばれる原料を精製、または原料を溶解する過程で排出されたカスがある。原料は多少にかかわらず不純物を含む。この不純物を溶解するときに炉壁粘土と化学反応させて分離しようというわけだ。不純物は鉄・銅など、溶解した金属に比べ比重が軽いので、ルツボ・溶解炉内で浮遊し、分離することが可能となる。

鋳造工房は特徴的な遺構・痕跡を残すことが少なく、発掘調査で鋳造工房を特定することは難しい。よって、鉱滓の発見が付近での金属加工、とくに溶解にかかわる加工活動を示す決め手となることもある。ところが、鉱滓の出土状況を観察するかぎり、鋳造工房の一角からまとまって発見されることはむしろ少なく、工房からかなり離れた集落域や耕作地からの発見もある。

河内鋳物師の活動拠点とされる美原町・堺市東南部・松原市南部の中世遺跡の発掘調査でも鋳造遺構の有無にかかわらず、高い確率で鉱滓が発見されている。今回調査区からも少量ではあるが鉱滓が発見されている。発見位置は岡遺跡内で炉跡などの鋳造関連遺構が集中発見された場所から100m以上の距離がある。鉱滓は鋳造関連遺構より高所からみつかり、整地や自然堆積による流入とは考えにくい。それでは、付近に未知の鋳造工房を想定すべきだろうか。

鉱滓が集落から発見されることは美原町余部遺跡（その1）調査区でも確認されている。97・98年度に行われた約15000㎡に及ぶ調査区内からは集落の一端と耕作地が確認された。鋳造を直接的に物語る施設・遺物は発見されなかったが、鉱滓だけはいたるところから発見された。

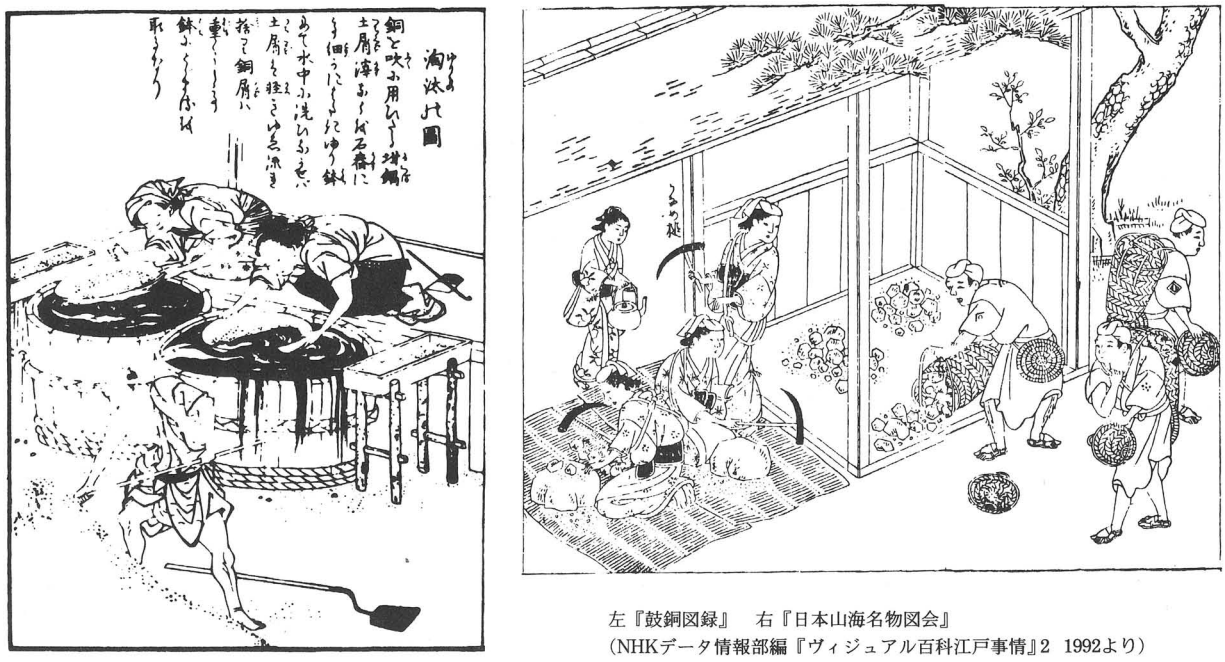
以上を考慮すれば、鉱滓は鋳造活動にともなって発生したのちに広範囲に持ち出された可能性がある。なぜだろうか。例えば、文献には金属加工に伴う土地・水の汚染によって、収穫が減ったことを訴える訴状がある。付近の不安を考慮して、鉱滓を分散して捨てることが行われたのかもしれない。しかし、鉱滓は集落からも出土しており、矛盾を生じる。

そこで、産業史料をひもとくと注目すべき、女性の仕事があった。『日本山海名物図会』・『鼓銅図録』は近世の銅鉱山関連の作業過程について図示、記録している。そのうち選鉱の図では女性が小屋にムシロを敷いて石を打ち砕く情景が描かれている。この時、使用されているのは「砕女槌」と呼ばれる女性専用のハンマーである。鉱石は砕かれて、その中に残された銅の残片をより分けるのである。その他、溶解に使ったルツボ・土屑・滓を石臼で挽いて、桶の水につけながら選り分ける作業の図もある。

中世鋳物師の実態は具体化できないものの、金属加工の作業場は男性を主体とする専門工人に

よるものだろう。そして、これまでの調査例では生産域にスクラップ銅や原料片の発見がほとんどなく、念入りに回収する作業が行われたと考えられている。廃棄物の大半を占める鉱滓だけが例外だったとは考えにくい。鉱滓から原料の残片は丁寧に回収されるはずだ。この工程は鋳造工房でも行われたのだろうが、さらに細かい原料残片の抽出がどのようになされていたのかは知られていない。つまり、この工程は後に図示された史料のように女性が主に行っていたと考える。

家事や農作業などの合間に内職を希望した女性が鉱滓を手に入れ、原料残片を回収する作業をしたのではないだろうか。そうだとすれば、鋳造活動によって発生した鉱滓は生産域から一端回収されたのち、生活域に運ばれた可能性が高い。鋳造関連遺構以外から発見される鉱滓は粉々にされ、握りこぶしより大きなものは見たことがない。また、接合も出来ない。鉱滓は銅・鉄残片の回収用に粉砕され、二次廃棄されることが常であれば、その発見をもって付近に鋳造関連遺構の存在を予想することは難しくなる。発掘調査で得られる鉱滓の拡散を示す資料こそ、金属加工の専門工人と集落のかかわりを具体化する重要な要素と受け留めることができないだろうか。



左『鼓銅図録』　右『日本山海名物図会』
（NHKデータ情報部編『ヴィジュアル百科江戸事情』2　1992より）

図7　銅滓選別・選鉱の様子

実測遺物登録対照表

実測番号	器種・時期	挿図番号	図版番号	出土層位・遺構	遺存度合
1	土師器高坏　奈良時代後期			茶褐土	脚部小片
2	須恵器小壺　奈良時代後期	図６－10	図版４－３k	茶褐土	1/3残
3	土師器皿　奈良時代後期	図６－２	図版４－３f	井戸１埋め土上層	小片
4	須恵器坏蓋　奈良時代後期	図６－５	図版４－３b	茶褐土	小片
5	須恵器坏蓋　奈良時代後期	図６－６	図版４－３c	茶褐土	小片
6	須恵器坏蓋　奈良時代後期	図６－７	図版４－３a	茶褐土	小片
7	須恵器鉢　奈良時代後期	図６－11	図版４－３j	茶褐土	小片
8	須恵器坏身　奈良時代後期	図６－９	図版４－３i	表土	小片
9	土師器甕　奈良時代	図６－３	図版４－３d	茶褐土	小片
10	土師器壺　奈良時代	図６－１	図版４－３g	茶褐土	小片
11	須恵器坏身　奈良時代後期	図６－８	図版４－３e	表土	小片
12	土師器羽釜　奈良時代後期	図６－４		茶褐土(土器集中地点)	口縁のみ
13	須恵器壺　奈良時代後期	図６－12	表紙写真	茶褐土(土器集中地点)	2/3残
14	瓦器碗　平安時代末	図６－13		土坑２埋め土暗褐土	1/3残
15	軒平瓦　江戸時代	図６－15	図版４－４a	溝１埋め土暗褐灰土	小片
16	軒平瓦　江戸時代	図６－14	図版４－４b	溝１埋め土暗褐灰土	小片
17	陶器すり鉢　江戸時代	図６－18		溝１埋め土暗褐灰土	小片
18	木器シャク柄　江戸時代	図６－17		井戸１埋め土上層	破損
19	木器シャク身　江戸時代	図６－16	図版４－５	井戸１埋め土上層	破損

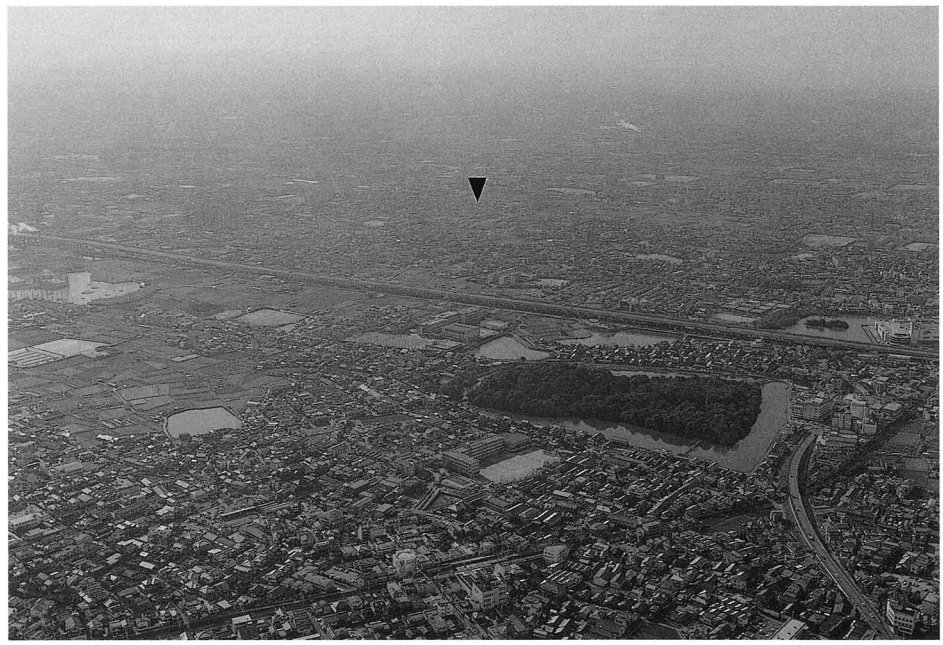
報　告　書　抄　録

ふりがな	おかいせき
書名	岡遺跡
福書名・巻次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告1999－７
編著者名	西川　寿勝
編集機関	大阪府教育委員会
所在地	〒540－8571　大阪府大阪市中央区大手前２丁目　☎06（6941）0351
発行年月日	2000．３．31

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (m²)	調査原因
岡遺跡（おかいせき）	大阪府松原市（おおさかふまつばらし）岡（おか）２丁目	27217	99014	34° 33′ 40″	135° 33′ 20″	99年８月１月 ～ 00年３月31日	130m²	府警松原岡交番建設に伴う調査

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岡遺跡	集落	奈良時代 中世 近世	土坑 土坑・掘立柱建物 井戸・溝	須恵器・土師器 瓦器・陶器・鉱滓 陶磁器・瓦・木器	

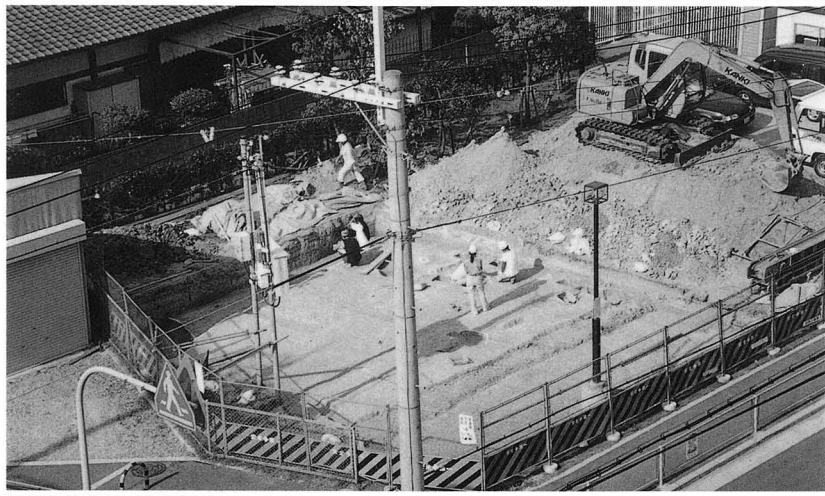
図　版



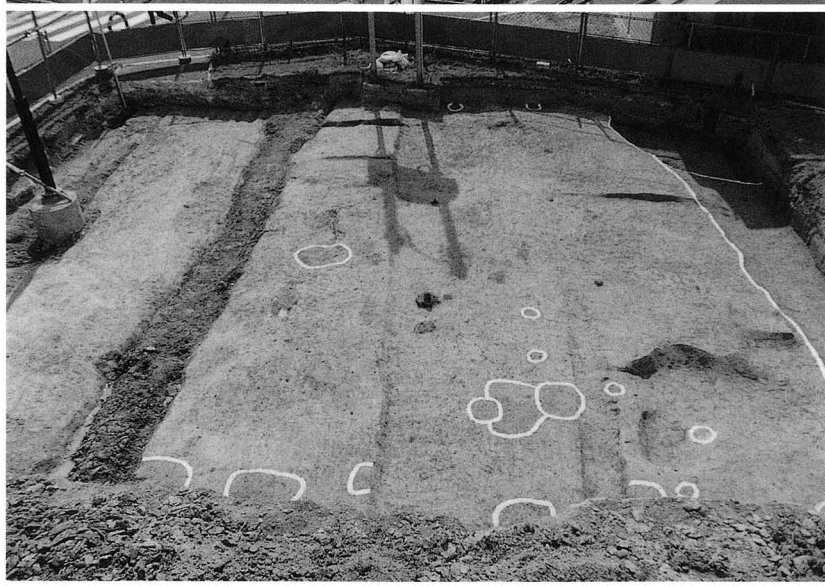
河内大塚山古墳より調査区を望む（矢印は岡遺跡）

図版１

１、河内大塚山古墳（南から）

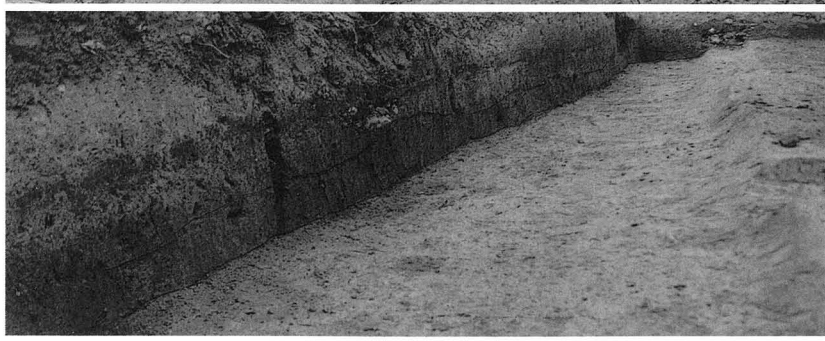


２、調査区遠景（南から）

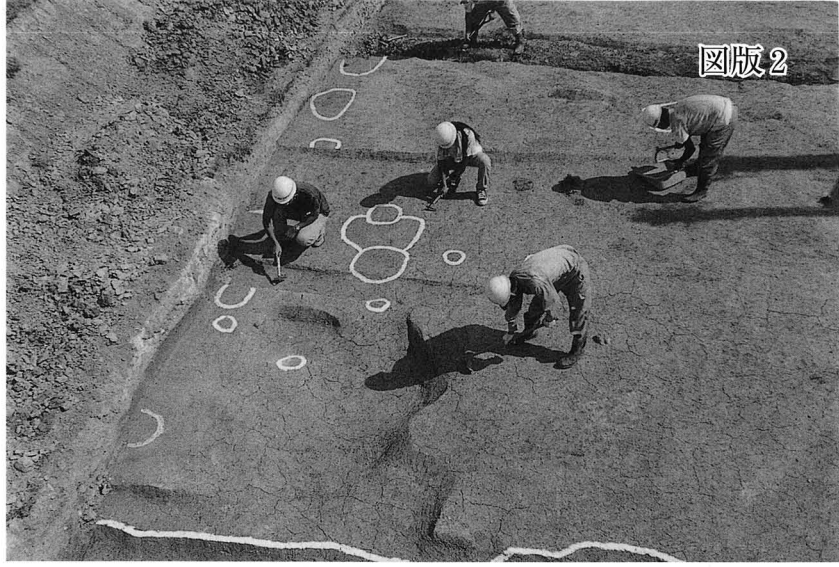


３、遺構検出状況（東から）

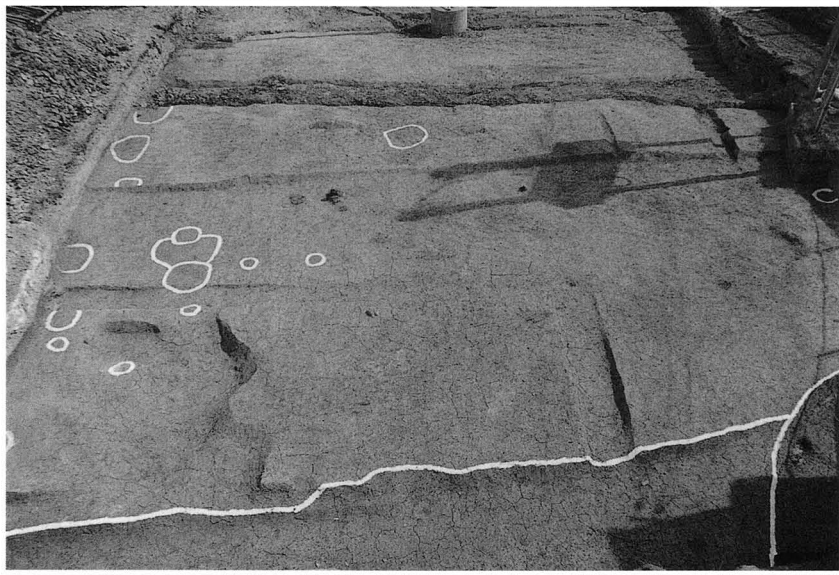
４、調査風景（南から）



５、土層堆積状況（南から）

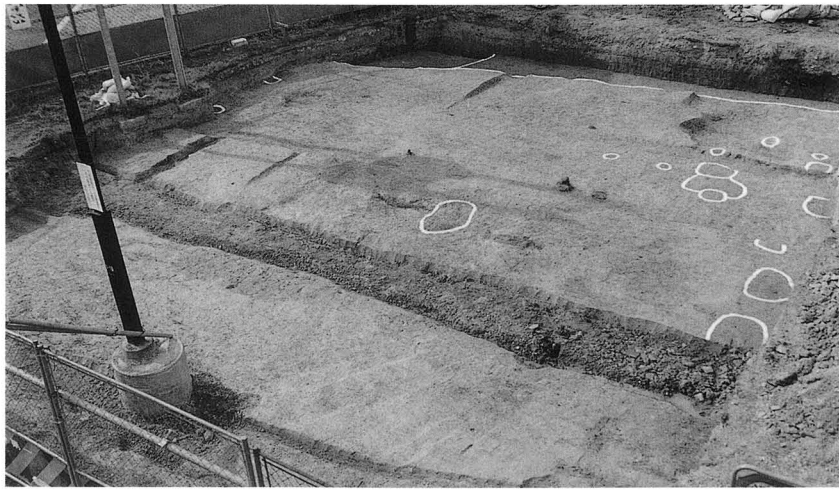


1、遺構検出状況（北から）

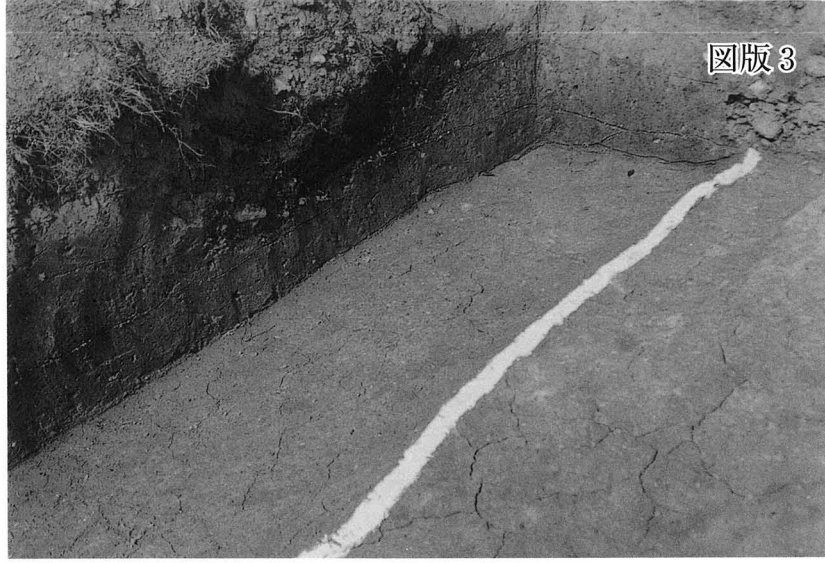


2、全景（北から）

3、遺構検出状況（南から）



4、全景（南から）



１、溝１堆積状況（南から）

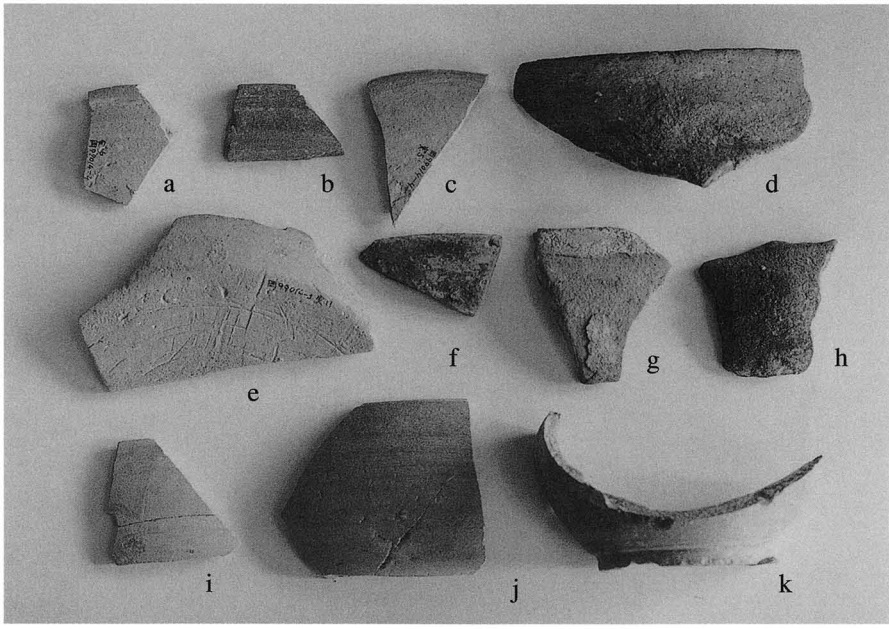
２、井戸１堆積状況（東から）

３、土坑５堆積状況（西から）

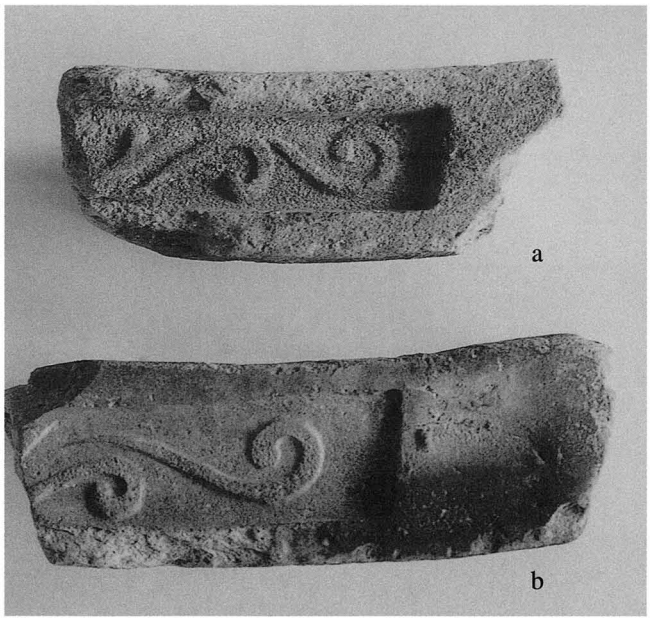
４、土坑２,３堆積状況(西から)

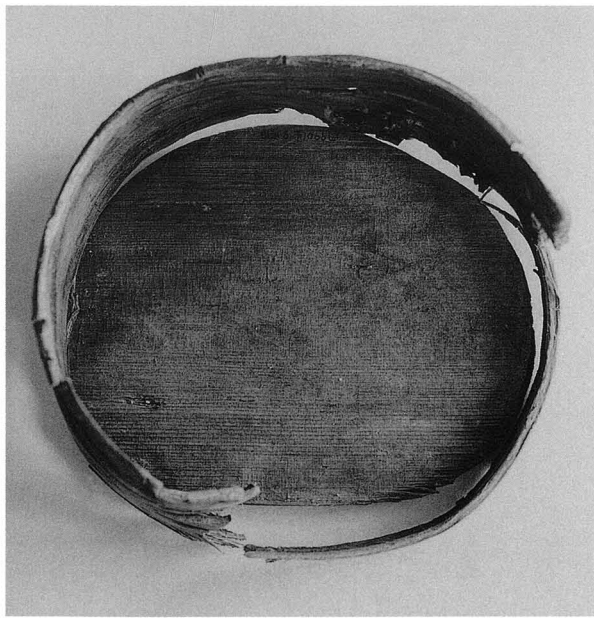
1、立会調査（９９－２区　西から）

2、立会調査（９９－３区　南から）



3、出土土器
4、出土軒瓦
5、出土木器





大阪府埋蔵文化財調査報告 1999－7

岡　遺　跡

発　行　大阪府教育委員会
〒540－8571
大阪市中央区大手前2丁目
TEL. 06－6941－0351
発行日　2000年3月31日
印　刷　株式会社 中島弘文堂印刷所